

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（ 相可高等学校 ）

1 目指す姿

|            |               |  |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 |               | 「大いなる夢 大いなる挑戦 大いなる明日」をキャッチフレーズとし、常に進化しながら「生徒の夢をかなえる学校」、「地域と共に歩む学校」、「教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校」となることを目指します。 |
| (2)        | 育みたい<br>児童生徒像 | 夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒<br>変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒                                |
|            | ありたい<br>教職員像  | 生徒の学力向上に努めるとともに生徒の人権と健康を守る教職員<br>同僚性を発揮するとともに互いに支えあうことができる教職員  |

2 現状認識

|                             |  |  |               |
|-----------------------------|--|--|---------------|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 |  | 生徒、保護者、地域社会<br>○学習指導・生徒指導・進路指導、部活動指導の充実<br>○地域活性化への貢献<br>○卓越した取組とその成果の継承   |               |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待    | 連携する相手からの要望・期待   |  | 連携する相手への要望・期待 |
|                             | 生徒：分かる授業・楽しい授業、進路実現、部活動の活性化<br>保護者：学習指導・生徒指導・進路指導の充実<br>地域社会：地域活性化への貢献 | 保護者：学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導<br>地域社会：学校教育活動への理解・協力・支援、学習成果を発表・活用する機会の提供   |               |
| (3) 前年度の学校関係者評価等            |  | キャリア教育について、普通科にかかる部分が弱い。地域との連携についても普通科としての関わりをより一層強めることはできないか。<br>先生方が自信を持って指導している姿が伺える。その強みをさらに生かして、生徒の学力が一層向上するよう指導の改善を進めていただきたい。<br>シラバスについて、生徒が読んで本当に役立つなど実際に進学指導や学科経営に生かすことができるものにしていただきたい。   |               |
| (4) 現状と課題                   | 教育活動   | ○「生徒の夢をかなえる学校」に関して<br>生徒が希望進路を実現する学力を身に付けることができるよう、授業の工夫、課外補習、家庭学習の定着指導等各種の取組を進めており、一定の成果が見られますが、より一層の成果をだすために、さらに取組の充実を図る必要があります。<br>○「地域と共に歩む学校」に関して<br>専門学科が行う地域の行政・企業・教育機関等と連携した取組や一部の運動部・文化部による地域と連携した活動等により、本校は現在、地域になくてはならない学校として高い評価を受けています。 |               |
|                             | 学校運営等  | ○「皆がやりがいを実感する学校」に関して<br>勤務時間を超えて分掌業務、部活動指導業務等に従事するなど恒常的な過重労働に陥っている職員や、放課後の補習・会議等で多忙感を感じている職員がいます。<br>授業・分掌業務・部活動指導等について、個人の力量や手法に頼るのではなく、協力・協同して取り組む体制の確立が必要です。  |               |

### 3 中長期的な重点目標

|       |   |
|-------|---|
| 教育活動  | <p>○「生徒の夢をかなえる学校」に関して<br/>全職員による共通理解の下で実効あるOJTと共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な生活習慣・学習習慣を身に付け、希望する資格を取得するなどして希望進路の実現を果たしています。</p> <p>○「地域と共に歩む学校」に関して<br/>「地域と共に歩む学校づくり」を活性化するため、各学科の特性を生かした学科横断的な取組を地域と連携しながら多角的に展開し、その様子や成果を積極的に情報発信することにより、「相可高校ブランド」を創り上げています。</p> |
| 学校運営等 | <p>○「皆がやりがいを実感する学校」に関して<br/>教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能して活気のある明るい組織風土が醸成されており、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足しています。<br/>授業・分掌業務・部活動指導等について、協力・協同して取り組む体制が確立しています。</p>  |

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

| 項目        | 取組内容・指標  | 結果  | 備考 |
|-----------|--|---|----|
| 学習指導の充実   | <p>○相可高校ならではの特色ある教育について、各学科で研究し、教育面での相可高ブランドの確立を目指します。</p> <p>○持続可能な地域づくりの貢献に結びつく各種の取組を行い、地域から信頼され必要とされる学校づくりを一層推進します。各学科は学科の特色を生かしたり学科間連携を図ったりするなど工夫をこらして、地域と連携した活動を行います。</p> <p>○地域社会にこだわりつつ、一方でグローバル社会で通用する力を持った人材育成に資する教育の在り方について研究します。</p> <p>【活動指標】相可高ブランドとして情報発信できる取組各学科1つ以上<br/>【成果指標】特色ある教育を受講し満足と答えた生徒の割合90%以上</p> | <p>○各学科で特色ある授業や実習等を生かして成果を蓄積し、相可高ブランドを確立しつつある。<br/>(生産経済科：絶滅危惧種アゼオトギリの保全活動、バイオマス発電に伴う残渣の再利用研究、地元企業とのコラボによる新商品開発等。環境創造科：測量士合格率日本一、公務員希望者28名合格。食物調理科：グローバル社会での活躍を視野に入れた取組への挑戦、調理に係るより高度な知識・技術の習得。普通科：他学科の生徒の活動や成果から刺激を受け自己の進路を考える機会とするとともに、そうした活動や成果から学校への帰属意識(相可高校との一員と言う自覚)が醸成されて学ぶ意欲の喚起に繋がっている。)</p> <p>○生産経済科の環境保全活動やバイオマス発電とのコラボ、環境創造科の公務員育成による地域の人材確保、食物調理科の各種の地域活性化の取組、また進学・就職ともに、県内や地元を中心とする進学・就職実績。</p> <p>●成果指標の達成度：90.8%(2学期末)</p> |    |
| キャリア教育の充実 | <p>○進路保障という面からだけでなく、生徒の人生を豊かにするという観点からキャリア形成を促すため、普通科の3</p>  | <p>○普通科の進路については、88.4%の生徒が大学短大専門学校へ進学しており、従来の就職まで含めた多様な進路上とはなっていない。専門学校</p>  |    |

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
|  | <p>年間を見通したキャリア教育推進プログラムを作成します。専門学科においても、プログラムが未整理の場合は3年間を見越した計画として再整理します。</p> <p>【活動指標】相可高校キャリア教育プログラムの作成</p> <p>【成果指標】アンケートで「参考になった」と答えた教員の割合90%以上→(修正)キャリア教育プログラムの完成</p> | <p>への進学者についても進路未決定によるモラトリアムの延長ではなく、公務員になりたい、〇〇の職業に就きたいなど目的意識が明確であり、自分のキャリア形成を踏まえた進路選択となっており、本校は「ミニ進学校」と鳴りつつある。こうした点を踏まえて普通科の計画的で系統的なキャリア教育を進めるために、キャリアプログラムを作成した。</p> <p>●成果指標の達成度：キャリア教育プログラムの完成</p> |  |
|--|--|---|--|

### 改善課題

- ・学習指導の満足度で専門学科に比して、普通科の満足度が若干低いことから、普通科の学習指導について一層充実する必要がある。(普通科の満足度：81.2%、専門学科の満足度：85.7%)
- ・学校全体で落ち着いた学ぶ雰囲気は充実しており、生徒に非常に落ち着いた学ぶ姿勢と積極的に学ぼうとする意欲が定着しているが、それに応え得る授業を提供しているかどうかという点について、特に普通科の生徒の進路希望を踏まえて分析し改善を図る必要がある。
- ・普通科のキャリア教育プログラムについて、生徒に付けたい学力と社会が求めている学力との整合性を図るとともに、アクティブラーニング等の新たな学びの手法の積極的な導入を図りつつ、より一層実効性の高いプログラムとなるようさらなる改善と修正を図る必要がある。
- ・本校のブランド化が進み成果が現れる中で、中学校からのヒアリングでは相可高校に入りにくくなっているという声を聞くことが多く、実際そのことを受けて本年度の入試では本校への希望者が減少するという減少が見られた。意欲のある生徒、誠実に学ぼうとする生徒であれば本校での学習に耐えうることを中学へ情報提供するなど、中学との一層の密接な連携を図り、地域の学校としての活性化を推進する必要がある。

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

| 項目           | 取組内容・指標  | 結果  | 備考 |
|--------------|--|---|----|
| 授業力向上の取組     | <p>○今後必要となるアクティブラーニング等の指導に係る研修会を年3回実施し、授業の充実を図ります。研修会実施にあたり、互見授業の手法などを取り入れ、より実践的な研修会とすることで、同僚性の発揮にむすびつけます。</p> <p>【活動指標】年3回に研修会の実施</p> <p>【成果指標】アンケートで「参考になった」と答えた教員の割合75%以上</p> | <p>○ALの研修会を1.5h×3回実施し、教員の意識改革と授業改善を進めた。ALの研修の延長としてコーチングについても研修をおこなった。中には積極的にALを授業に取り入れている教員もいる。</p> <p>●成果指標の達成度：100%</p> |    |
| 働きやすい職場環境づくり | <p>○総勤務時間の縮減に向け、効率的な業務推進や年休等を有効に活用できる環境整備に努めます。特に、本年度は会議内容の質の向上とともに会議時間の一層の短</p>   | <p>○会議については多大な時間延長はないが、より一層の効率化を図るため、資料の事前配布等の一層の工夫が必要である。また、総勤務時間の縮減については個人差がある。</p>                                     |    |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  | <p>縮を図ります。</p> <p>○教育活動に対してすべての教職員が協力・協同して取り組むことができるよう意識の変革と向上を図ります。</p> | <p>○課題のある生徒への指導については個人で抱え込むことがないよう組織的にまた計画的に対応することができた。組織的に仕事をすれば一人ひとりの業務量は平等になるという誤認が一部の教員にある。普通科の在り方について、教職員の意識の統一を図る機会を持つことができなかった。</p> |
|--|--|--|

### 改善課題

- ・アクティブラーニングについて、グループ学習とか発表といった手法だけでなく、より柔軟に捉えて、生徒がアクティブに学ぶ授業の実践をさらに増やす必要がある。(従来型の知識注入型の一斉授業も重要であるという理解の元で。)
- ・アクティブラーニングを積極的に実施している教員もおり、互見授業や意見交換が積極的にかつ気軽にできる環境を設定するなど、教員がアクティブラーニングについてアクティブに学ぶ環境作りが必要である。
- ・アクティブラーニング先進校への視察等も必要である。
- ・会議の精査精選を踏むためにも、委員会についても要不要を含め見直す必要がある。
- ・学校全体として総勤務時間が課題になっているわけではないが、一部の教員については、その人の働き方やこだわり等の特性から課題になっている。また、活動時間を含め部活の在り方についても課題となっている。
- ・普通科の在り方については従来から課題となっているが、宮川高校との統合後7年が経過し、定数減となるなかで学校規模としては統合前の規模に戻り、一方で新相可高校としての特色や成果も確立しつつある。その点について総括し教員の意識の統一を図る必要がある。普通科の向かうべき方向が、個人の教育観に引っ張られる傾向があるが、生徒の希望進路や進路実績を踏まえたうえで、普通科の在り方についてより一層明確にし、組織として意識の統一を図る必要がある。

## 5 学校関係者評価

|                            |  |
|----------------------------|--|
| <p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p> | <p>○普通科について、宮川高校との統合後7年が経過し、学力や進路等について総括し、今後の在り方について考えても良い時期に来ている。(普通科3学級完成年度である次年度1年生の様子を見てからでも良い。)</p> <p>○各教科での「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の実施と「ドリームチャレンジタイム(DCT)」の内容及び手法等の見直しと改善。</p> <p>○すべての学科において、生徒のより一層学習への意欲の喚起を図る充実策や工夫の検討。</p> <p>○社会の変化に対応できる高度で柔軟な学力を身に付けた人材の育成。</p> <p>○総勤務時間の縮減に向けて教職員の勤務の在り方について、教育活動全体の見直しと精査。</p> |
|----------------------------|--|

## 6 次年度に向けた改善策

|                     |  |
|---------------------|--|
| <p>教育活動についての改善策</p> | <p>○「主体的で対話的で深い学び(AL)」のより多くの教科での実施</p> <p>○生徒の学習意欲を喚起する指導・支援の在り方の研究と実施</p> <p>○キャリア教育プログラムの一層の改善</p> <p>○社会的・地域的ニーズの高い保育や看護等への進路実現を想定した教育実践・指導方法の工夫</p> <p>○自他の命の大切さについて学ぶ機会の拡大と主権者教育の実施</p> <p>○普通科の生徒の学力の実態等を踏まえた今後の普通科の在り方にかかるビジョンの呈示とビジョン実現に向けた具体策の検討・実施</p> <p>○グローバル社会で活動できる学力の育成とそのために必要な教育課程の研究</p> <p>○部活動の定時退校の厳守や休養日の設定等によるメリハリをつけた部活動指導の実施</p> |
| <p>学校運営についての改善策</p> | <p>○総勤務時間の縮減に向けた教職員の勤務の在り方を見直しと具体的改善策の検討・実施</p> <p>○生徒の学校生活満足度を高め学習意欲を喚起することを目的とした学習環境の整備(トイレの洋式化の充実拡大や校内美化の一層の徹底等)</p>  |